

□議員名：小野 泰

1 水道事業における今後の取組について

論点	アセットマネジメントにおける更新需要についてどのように考えているのか。
回答	アセットマネジメントの結果によると、今後40年で総額約248億円、単年度平均で約6.2億円の投資額が必要となった。この財源を求めるために水道料金の値上げを12月にお願いしたが否決となった。水道局としては、安定給水維持のため更新工事を行っていくつもりである。

論点	なぜ27年間料金改定をしなかったのか。
回答	1つは、平成3年のバブル崩壊や平成20年のリーマンショックなどによる景気低迷が続き公共料金を上げにくい状況が続いたこと、2つ目は、決算書の損益計算書について議会の理解を得ることが困難と考えていたことからである。

論点	これまでと今後の取組についてはどうか。
回答	給与関係では職員6名削減、賃金カット、特殊勤務手当の見直し、企業手当の廃止、契約関係では、検針業務の完全委託化、集金委託制度の廃止、水道料金の口座引き落としへの移行推進等に取り組んできた。今後は、高天原浄水場からの運転管理一元化と要員削減を予定している。

論点	広域についての考え方とアセットとの関係をどのように考えているのか。
回答	広域化については、企業費や人件費の抑制等、全体的にはメリットがデメリットを上回ると考える。宇部市とは広域化検討委員会を設置し協議を行っており、両市の広域化では厚東川水系の浄水場3つの統廃合により総額で1.8億円から12億円の事業費削減が予測される。

論点	コンビニ収納についての考えはあるのか。
回答	平成21年度から導入の検討を開始し、導入事業者への視察、調査等行った結果、高額な手数料が発生する等多くのデメリットが判明した。多額の費用を要する料金システムを改修してまでの前向きな対応には至らなかったが、諸般の動向判断から本年10月の導入に向け実施したい。

論点	国会で審議中の水道法改正を受けて、水道局は今後どのような経営、運営をされるのか。
回答	①適正な資産管理②持続可能なサービスに見合う水道料金の設定③広域化の推進④官民連携の推進⑤指定給水装置工事事業者の改善の5項目について健全経営をもとに公共サービスをしなさいということであるので、法が施行されたらそのようにしたいと考えている。

論点	水道料金改定に関する市民説明会の実施はどう考えているのか。
回答	市民説明会の実施は、市民に理解していただくために広報や説明などの取組が必要と考えている。議会より水道料金改定の市民説明会が必要とのことであったので、1月10日から2月21日の間にかけて、市内12か所において実施した。

論点	市民説明会は議案提出時だけでなく、内容を市民に説明し、意見を聞くことはいいことである。今回の結果はどうか。
回答	会場への来場者数は総数で45名。意見集約すると、値上げに反対は3名、賛成が2名。漏水、断水を防止して、安定給水を図るための更新工事はやむを得ないが、大幅値上げは困るので段階的にはできないか。広報を行った後に水道料金改定議案を提出すべきとの意見があった。

論点	40年先まで見通すには無理があるのではないか。
回答	40年先まで見通すには無理があると、議会からも市民説明からも指摘を受けた。水道局ではアセットマネジメントを行い更新総額が

	判明したので、この更新工事はどんなことがあっても行わなければいけない。漏水や断水が発生し安定給水が困難となり市民に迷惑をかけてはいけないと考えているからである。
--	--

論点	市民の負担が大きすぎはしないか。
回答	一般家庭での料金改定幅が税抜きで1か月50m <sup>3</sup> までは1,000円以内の引き上げとしていたが、改定率では、一般家庭2か月分、標準で45m <sup>3</sup> の使用水量の場合22.6%引き上げとなった。水道使用者から寄せられた意見を真摯に受け止め、改めて提案したい。

論点	一般家庭における改定率が22.6%、平均改定率15.18%に大きく上回るが、市民の負担をできるだけ軽減する考えはないのか。
回答	子や孫とともに支える安心安全安定の水道システムとして、世代間や使用者間の負担が公平かつ低くなるよう制度設計を行い、市民説明会において説明してきた。寄せられた意見等については、水道局としても真摯に受け止め十分に検討し今後の料金改定に反映していきたい。

論点	料金に宇部市との広域化が配慮されていないのではないか。
回答	共通項でない3つの問題、上下水道が宇部にあつて、山陽小野田市は工水があり、厚狭川水系という問題のほかに解決すべき問題があり、形態も決まっていないので、これから検討していきたいと考えている。

論点	水は貴重で高いものであるということを市民に理解してもらう必要があるのではないか。
回答	蛇口をひねれば水が出るのは当たり前、水は天下のもらい水というイメージが定着しているが、今では水道水は商品であり、水道の重要性や経費である水道料金についても市民に理解していただく必要があると考えている。